

東三河産学官交流サロン

東栄町長・村上孝治氏

11月17日、豊橋市内で行われた東三河懇話会主催の第37回東三河産学官交流サロンで、東栄町長の村上孝治氏が「交流から定住へ」と題しスピーチをした。

「キラリと輝く、自立を育む、交流創造の郷」―東栄町の人口は年々減少し、現在は3500人。国立社会保障・人口問題研究所（社人研）

によると、2040年には1516人と推計されている。若年女性人口の減少率は県下一の「消滅可能性都市」。それだけに若い世代の定住確保が最大の課題だ。

村上町長は「山間過疎地域で新たな定住を確保していくためには、住みやすい住環境は当然であるが、東栄町の魅力が高め、交流を通じて

東栄町に好感を持って頂くことが最も重要である」と「東栄町の暮らし」をDVDで紹介することから始めた。

東栄町は面積の8割以上が山林という地域であり、古くか

ーアート。人間と木が生み出すアートの試みは功を奏し、今年で15回目を迎えた全国大会では歴代チャンピオンの巨大モニュメントが展示されるなど、全国から1万5000人が集

まるビッグイベントとなっている。また、世界的にも有名なプロの和太鼓集団「志多ら」そのファンクラブであるNPO法人「てはへ」の存在も大きい。演

奏活動のかたわら地域活動にも参加し、集落の維持にも欠かせない存在となっている。これらを核に「のき山学校プロジェクト」や「和太鼓絆プロジェクト」に広がっている。

今、過疎高齢化の山里に大きな変化が訪れようとしている。

定者を先に決めて、希望を聞きながらリフォームすることにしました」と村上町長。定住への強い決意がうかがえる。

三遠南信道、第二東名、そして浜松・三ヶ日・豊橋道路の具体化である。村上町長は2040年に向け社人研の想定より5000人多い2160人の人口

交流から定住へ―強い決意

ら林業や寒暖の差を生かした茶づくりが盛んな地域で、地域資源を生かした様々なまちづくり活動が行われている。

その筆頭に上げられるのがチェーン

の存在も大きい。演

こつした交流から定住者を呼び込むために「定住促進空き家活用住宅」施策があり、今までに9世帯31人が入居しているという。

今年から入居予定

目標を掲げ、①賃貸 塾③東栄IC周辺整備⑥定住・起業・産業 備④東栄チキンのブ

ランド化⑤集落カルテ⑥定住・起業・産業 備④東栄チキンのブ

拡大支援―を中心に「町民の皆様の生活を第一に、東栄町の魅力を高め、みんなで力を合わせていけば交流から定住への新しい可能性が見えてきます」と挑戦の熱き思いを語った。

交流サロンでは村上町長に続き、新東工業特別顧問の川合悦威氏が「地方創生のための技術経営と人材育成」と題して「技術経営(MOT)」の重要性をスピーチした。(伊藤秀昭)



スピーチする村上孝治東栄町長